



北海道・東北 ネット



岩手わんこそばラウンド (3杯目) H26.8.10 (日) アイーナ

北海道・東北体育・保健体育ネットワーク研究会がいわて県民情報交流センター（アイーナ）において開催されました。岩手から18名、秋田、宮城、山形、茨城、千葉、新潟、鹿児島から16名、計34名の参加がありました。今回は、「平成26年度第18回体育授業研究会・岩手大会」の内容をシンポジウム・授業者・ワークショップ担当者等を招いてシェアし、東北から全国へ情報を発信するという内容で行いました。



シンポジウム「小学校低学年から小中高の体育を見通す」

宮古市立宮古小学校の山内弘文先生から、「岩手発 復興教育と低学年体育」と題して、勤務校での取組について、報告をいただきました。
復興教育と体育との関係や低学年の体育で目指していること、取組の実際の様子、成果として、学習意欲とともに何より学級の仲間意識が高まったこと、全校体制で基礎感覚づくりを重視した授業づくりを展開することができたことなどについて、説明がありました。

第1学年（小）授業提案

岩手大学教育学部附属小学校の根木地淳先生から、「器械・器具を使っての運動遊び」の授業提案について、報告をいただきました。
運動をゲーム化することやペアでの学習を取り入れること、鉄棒遊びと跳び箱遊びを単位時間内に織り交ぜて取り扱うことなどについて、説明がありました。



第3学年（小）授業提案

岩手大学教育学部附属小学校の松村毅先生から「ゴール型ゲーム：ラグハンド」の授業提案について、報告をいただきました。
使用するボールや用具、プレーヤーの人数、コートの方さへの配慮、必要感のある学習課題の設定と単元構成の工夫、体育ノートの活用などについて、説明がありました。

第1学年（中）授業提案

前回のわんこそばラウンドでも実践報告をいただいた盛岡市立城西中学校の中野達也先生から、「ゴール型」の授業提案について、報告をいただきました。
タスクゲームを活かした単元構成の工夫や準備運動に鬼ごっこを取り入れたこと、男女共習などについて、説明がありました。



ワークショップ（中・高）

盛岡市立下小路中学校の岡田幸一先生から「基礎感覚づくりを大切にしたい剣道の授業」について、報告をいただきました。
訓練、鍛錬、反復練習から脱却し、小学校低学年と同じく「楽しみながらの感覚づくり（タスクゲームのいろいろ）」を単元指導計画に位置付けた実践について、説明がありました。

グループ協議・まとめ・情報交換会

グループ協議では、報告を受けて自由に意見交換を行い、その中から話題になったことについて、佐藤豊先生よりご講義をいただきました。準備体操の在り方についても地域文化を大切にしながら体系化を図ること、ゴールの時点でどんな教養がついているべきか、そのためのカリキュラムはどうあればよいかについて、21世紀型能力の考え方、男女共習、教育アプローチなど、たくさんの有益な話を伺うことができました。
情報交換会では、さらにヒートアップし、充実したラウンドとなりました。

